公　　民　［ 倫理 ］　（100 点　50 分）

2019 年 5 月 24 日（金）1 限　実施
前期①考査
千葉県立長生高等学校　第 3 学年　全組
Edited by K.Kataoka

注　意　事　項

１　試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

２　解答用紙はマークシート式です。

３　受験番号はアルファベットを数字に直し，次の例のように５桁で記入してマークを忘れないこと。
例　３年Ｄ組１番　→　30401

４　試験中に解答用紙の不足，問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせなさい。

５　試験終了後，問題冊子は持ち帰って復習をするとともに，答案返却の際に持参すること。

倫　　理

（解答番号［1］～［50］）

第１問　神話的世界観についての問い（**問１～問４**）に答えよ。（配点　28）

古代ギリシア文学はホメロスと［　1　］との圧倒的影響下にあるが，これら両人の創作の前提はほかならぬ神話であった。壮大な神殿は神話に活躍する神々の住居であり，彫刻は神像の描出に始まった。ギリシアに独特な絵画ともいえる壺絵もそのモティーフを神話伝説に仰いだし，哲学も先行する神話との批判的対決を通して形成されていったと言えよう。ギリシア文化そのもののうちでこうした［　2　］的な働きをなしたギリシア神話は，ギリシア民族のもとを離れてさらに後世に生きのびた。［　3　］人はギリシアの神々についての物語を相似た［　3　］の神々の上に引き移すことで，そっくりこれを受け入れて，やはり文学，造形芸術の糧としたし，後のヨーロッパは大小さまざまな規模のルネサンスによって，このギリシア・［　3　］神話を受け取った。その伝統の強大さの証の一つは現代西欧諸語で〈神話〉を表す言葉はことごとくギリシア語の［　4　］に由来することにうかがい知れる。われわれの〈神話〉の語も近代西洋語を通しての［　4　］の翻訳語にほかならない。このようにギリシアは後世に神話という言葉と概念と，さらに豊かな実例とを伝えている。

問１　文章中の空欄［　1　］～［　4　］に入る最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［1］
① ソクラテス　② ヘロドトス
③ ソフォクレス　④ ヘシオドス

［2］
① 創造　② 対照
③ 相対　④ 模倣

［3］
① ゲルマン　② ローマ
③ トロイヤ　④ ペルシャ

［4］
① ΩＫＥＡＮＯΣ　② ＨＸΩ
③ ＩΣＴＯＰＩＡ　④ ＭΥΘＯΣ

天上の王となったゼウスは，神々にそれぞれの地位と職分を定め，自らはまず知恵の女神メティスと結婚した。メティスは女児に恵まれるが，次に男児が生まれ，その子はゼウスの王位を奪うことになるとの預言から，ゼウスはすでに妊娠していたメティスを腹の中に飲み込んでしまう。ところが胎児はそのまま成育し，やがて甲冑を着けて槍と楯を持った［　5　］が，雄たけびをあげながらゼウスの頭のてっぺんから飛び出した。戦いの女神であり，知恵の神でもある［　5　］は，フクロウがシンボルでもある。ゼウスがティタンのコイオスの娘レト女神を愛人にして，彼女に男女の双子を懐妊させたとき，彼はすでにヘラと結婚していた。レトに嫉妬したヘラは，世界中の土地に対し，レトに分娩の場所を提供してはならないと命令したため，レトは臨月の腹を抱えて難渋した。しかし最後に，当時はまだ海面に漂う岩塊で，土地の数に入らなかったために，ヘラの禁令を受けていなかったデロス島に頼み込み，月の女神アルテミスと［　6　］を出産することができた。［　6　］は音楽の神，太

陽神でもあり，また医神アスクレピオスの父である。彼は，人間と都市のあらゆる病に治癒をもたらす救い主的医神でもあった反面，弓矢の神であり，彼の矢が人間に向かって放たれると，死を招く疫病の矢になると信じられた。

オリンポス 12 神の一つに数えられる美と愛の女神［　7　］は，一伝によれば，ディオネ女神から生まれたゼウスの娘である。しかし，彼女はウラノスの娘で，海に投げ捨てられたウラノスの男根からわいて出た泡の中で生まれ，キプロス島に上陸してオリンポスに行き，神々の仲間に加わったとする伝えもある。

いまの人類は，あらゆる種類の災いに苦しめられ，つかのまの生を生きなければならない。それは，ティタンのイアペトスの息子プロメテウスが，ゼウスを欺いて天から火を盗み，人間に与えてしまったことへの怒りに原点がある。ゼウスは神々に命じて，最初の人間の女［　8　］をつくらせ，プロメテウスの弟で愚か者のエピメテウスに嫁がせた。さらにヘルメスにより，破廉恥な心と盗人の性質を入れられた［　8　］の後裔の女たちの種族が発生し，これと結婚して，嘘と貪欲に悩まされながら暮らすことが，人間の男の運命と決められた。そのうえ［　8　］は，夫の家でみつけた甕の蓋をとり，それまで中に封じ込められていたあらゆる災いを外に飛び出させてしまった。その結果，人間は以後もろもろの災いに絶えず外側から脅かされながら，内部からは希望によって鼓舞されると同時に，欺かれて生きていかなければならなくなった。

［　9　］とは，秩序に対立するギリシア語で「混沌」と訳される。この語の初出は前 700 年ころのギリシアの詩人の［　１０　］においてである。そこでは［　9　］は宇宙形成の原初に出現したとされるが，語義として「口を開けた空間」が推定され，天と地の裂け目を意味するとみられる。

問２　文章中の空欄［　5　］～［　１０　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［5］
① アテナ　② アフロディテ
③ ガイア　④ ヘラ

［6］
① ウラノス　② アポロン
③ ディオニュソス　④ アレス

［7］
① アテナ　② アフロディテ
③ ガイア　④ ヘラ

［8］
① パンドラ　② ヘラ
③ テティス　④ エリス

［9］
① オケアノス　② ポタモス
③ カオス　④ コスモス

［10］
① オデュッセイア　② 神統記
③ 仕事と日々　④ イリアス

哲学とは，英語 philosophy などの訳。[　１１　] により，「希哲学」を経てこの訳語が採用された（《百一新論》1874 年）。欧語はギリシア語 philosophia（philein＋sophia〈愛知〉）に由来する。古代ギリシアの愛知の概念が真なるものの知（[　１２　] 知）と道徳的実践（実践知）を含んでいたように，哲学には物事の合理的認識と人間の徳の追求が含まれる。そしていずれの場合も〈現実〉の整合的・体系的説明とその批判が内容をなす。〈現実〉の説明・批判は，自然や人間社会の〈もの〉や現象に直ちに向かうよりも，それらと人間とのかかわりあいの探求に向かう。歴史の場合にも，歴史的事実ではなくて歴史の意味の探求に向かうのが哲学である。したがって，哲学は自然・人文・社会諸科学と密接な関係をもつが，最後にはさまざまな経験を統合する基本的観点をつくる知的努力となる。西洋にあっては，この知による知の根拠づけとも言うべき哲学の長い伝統があり，哲学といえば西洋哲学を指すことが多い。文明史的観点から西洋哲学を相対化することは可能であるし，場合によって必要であるものの，[　１３　]（言葉，論理，理性）の運動を極限まで押し進めるという徹底性は他の思想伝統には見られない特質であって，安易な批判や超克こそむしろ警戒されるべきである。

問３　文章中の空欄［　１１　］～［　１３　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［11］
① 中村正直　② 西周
③ 森有礼　④ 福沢諭吉

［12］
① 善美　② 論理
③ 真実　④ 理論

［13］
① ミュトス　② ヒュブリス
③ ロゴス　④ モイラ

問４　次の文を読み取り，空欄［14］に入る語として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

アリストテレスは『政治学』第７巻において，学問探究（愛知心＝フィロソフィア＝哲学）は［　14　］を善用するために不可欠であり，また［　14　］がなければ，学問研究はあり得ないことを主張する。この場合，彼のいう［　14　］とは，生活に必要なものが備わっていることであり，そのために生ずる余裕ある時間を意味する。「スクール」とは，いわば「スコレー」を研究・教育によって善用する「場」なのである。そして彼は，「奴隷には［　14　］はない」というのである。メセナとは，この意味において，お抱えの文人・学者の生活を保護し，奴隷のように生活のためあくせくと働く必要のない，知的探求に専念しうる自由な時間を与えるものの謂（いい）に他ならない。（野町啓『謎の古代都市アレクサンドリア』）

① 夢　② 心　③ 金　④ 閑

第２問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問８**）に答えよ。（配点　32）

ギリシア哲学は，ギリシアのさかんな植民活動により小アジアのイオニア地方に栄えた都市国家の生活を基盤として，紀元前６世紀ごろに生まれた。その口火を切ったのが植民都市ミレトスの［　15　］である。彼は天文学や幾何学の確立に大きな功績を残した自然研究者であったが，それだけにとどまらず，(ア)自然を成り立たせる根本原理として，移ろうことも滅びることもない(イ)万物の根源を問題にした。［　15　］はそれを「水」としたが，これを受けてその後，万物の根源を問う思想家がつぎつぎとあらわれた。

このようにはじまった，生成する自然と真に存在するものとをめぐる哲学的思考は，現代にいたるまで西洋思想に大きな影響をおよぼしている。(a)ヘラクレイトスは，「万物は流転する」と考え，その根源は「永遠に生きる［　16　］」であるとした。(b)ピタゴラスは，万物は［　17　］によって秩序づけられていると考え，その根源を［　17　］であるとした。一方，(c)エレア学派の(d)パルメニデスは，「在るものは在り，在らぬものは在らぬ」と考えた。つまり，生成生滅という変化や運動というものは，人間の感覚によってそう見える(ウ)思いこみにすぎず，ほんとうに存在するものは，生成生滅することなく，永遠不変に存在するという。このような考え方は，のちにプラトンやアリストテレスらに影響を与えることになった。また，エンペドクレスは，［　A　］という不変の四元素から世界は成り立っているとした。デモクリトスは，万物の根源を，それ以上分割することのできない微小な物体的存在である［　18　］に求めた。そして，真に存在するのは［　18　］のみであり，色や味は人為的な約束事や習慣的なとり決めにすぎないとした。

問１　文章中の空欄［　15　］～［　18　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［15］
① ソロン　② クレイステネス
③ タレス　④ キロン

［16］
① 火　② 土
③ 水　④ 空気

［17］
① 物　② 数
③ 形　④ 音

［18］
① 元素　② 原子
③ 分子　④ 粒子

問２　文章中の下線部（ア）～（ウ）を意味するギリシア語単語として最も適当なもの，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［19］（ア）①ΦΩΝΗ　②ΦΙΛΕΩ　③ΠΑΤΗΡ　④ΦΥΣΙΣ

［20］（イ）①ΑΛΗΘΗΣ　②ΑΝΘΡΩΠΟΣ　③ΑΡΧΗ　④ΑΠΟΛΛΩΝ

［21］（ウ）①ΔΟΞΑ　②ΓΙΓΑΣ　③ΔΡΑΚΩΝ　④ΔΗΜΟΣ

問３　空欄［　A　］に入る語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[22]

①　東西南北　　②　木火土金水　　③　火土水空気　　④　雪月花宙

問４　下線部(a)に関して，次のヘラクレイトスの著作の断片とされる文中の空欄［23］に入る語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

一緒に結びついているもの。それは，全体と全体ならぬもの。寄せ集められたものと分け離されたもの。調子の合ったものと合わないもの。万物から一が，一から万物が生ずる　反対するものが協調する，そして異なる（音）から最も美しいハルモニエ（音調）が生じ，万物は［　23　］によって生まれる。

①　善　　②　数　　③　音　　④　争い

問５　ヘーゲルは著作『哲学史講義』の中で，弁証法の祖としてヘラクレイトスとエレアのゼノン，プラトンを挙げた。弁証法についての次の記述を読み，文中の空欄［24］［25］に入る最も適当な語を，下の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

弁証法的な運動とは，あるものが最初はただ自分自身として，自分自身のなかに，いわば自分自身に即して（即自アン・ジヒ）あるが，やがてそれが必然的に自分自身にとって他者となり，自分自身に対して（対自フュール・ジヒ）あるようになる。しかしこのものは他者となりながらも依然として自分自身であるから，いったん自分がそうなった他者というあり方を廃棄（［　24　］）して，ふたたび自分自身のもとにもどるというプロセスであり，この最後に到達した段階が即且対自（アン・ウント・フュール・ジヒ）と呼ばれる。この運動には３つの段階があるのだが，これらに対してそれぞれ，即自・対自・即且対自とか，正・反・合とか，定立・反定立・［　25　］という名称が与えられて一種の論理的図式のなったものがいわゆる弁証法である。中埜肇『弁証法』

［24］　①　アウフヘーベン　　②　テーゼ　　③　アンチテーゼ　　④　ジンテーゼ

［25］　①　終焉　　②　総合　　③　結論　　④　分析

問５　下線部(b)に関して，次のピュタゴラス派についての記述中の空欄［26］［27］に入る語として，最も適当なものを，下の①～④のうちから一つずつ選べ。

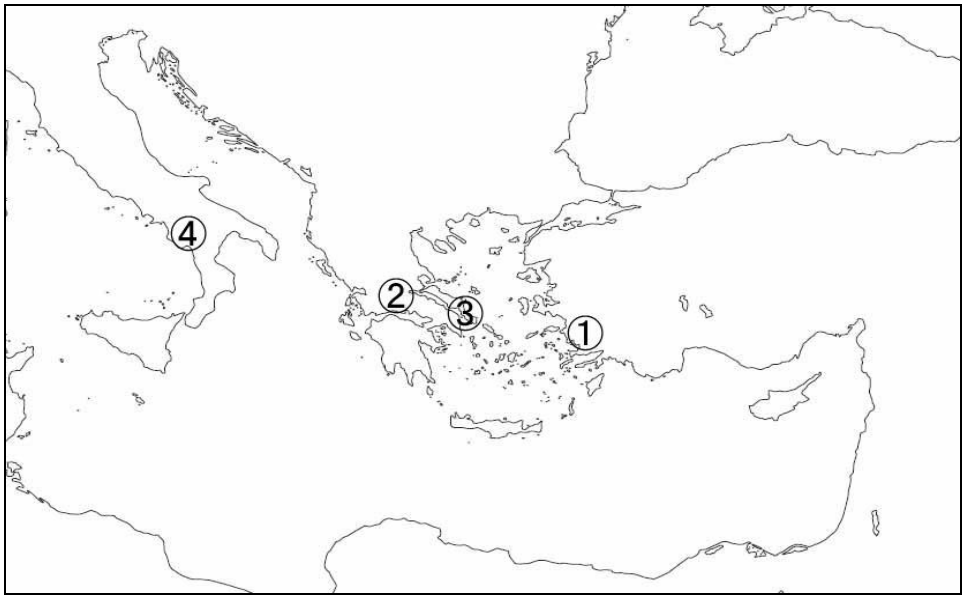
１は最初の自然数あるいは単位数であるだけではなく，全体，究極，完全を意味した。同様に２は２個の単位数ではなく，対立，分裂，［　26　］，無限を，３は調和，秩序，神性を，４は事物，配分，正義などを意味する。数は量ではなく，存在の元型的形相だったのである。このことを象徴的に表しているのが「四元数(テトラクテュス)」である。この１，２，３，４から成る10個の点は，大宇宙と小宇宙に共通する［　27　］をあらわし，ピタゴラス教団ではこの図形の前で誓いを立てたと伝えられている。

［26］　①　現実　　②　始原　　③　闘争　　④　美

［27］　①　総体質量　　②　計算結果　　③　輪廻転生　　④　世界秩序

問６　下線部(c)に関して，エレアの場所として最も適当なものを，下の①～④のうちから一

つ選べ。[28]



問７　下線部(d)に関して，次のパルメニデスの著作の断片中の空欄［29］に入る最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

いざ，わたしは語ろう。汝はこのことばを聞きて心に留めるがよい。探究の道として考えられるはただこれらあるのみ。そのひとつは「ある」，そして「ないはない」という道。これは説得の道である。(真理にしたがうがゆえに)

他方は「ない」，そして「ないがあらねばならない」という道。だがこれはまったく探ねざる道であることをわたしは汝に告げる。なぜなら，［　29　］を汝は知ることもできねば（それはなしえぬことであるから)，語ることもできないから。

①　真理　　②　探究　　③　ないもの　　④　あるもの

問８　次の説をとなえた自然哲学者として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。[30]

飛んでいる矢は、今という瞬間には一定地点にあり、次の瞬間にも次の一定地点にある。こうして飛矢は各瞬間には静止しており、静止を積み重ねても運動は出てこない。

①エレアのゼノン　　②アナクシメネス　　③アナクシマンドロス　　④メリッソス

第３問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問４**）に答えよ。（配点　16）

ソフィストたちの多くは地方ポリスの出身者で、アテネほかのポリスを巡り、［　A　］を中心にさまざまの専門的知識を教授することを職業とした。アブデラのプロタゴラス、レオンティノイのゴルギアス、ケオスのプロディコス、エリスのヒッピアスらが有名である。

民主政のアテネでは、議会や法廷での弁論に優れていることが、政界での、つまり市民としての成功を意味した。ソフィストたちは時代の要求にこたえ、多額の謝礼と引き換えに富家の子弟に演説や論争の技術を授けた。講義は作文修辞の法のみならず、法律道徳論、文明論などの実質的思想にも及んだ。彼らが徹底的な形で示した言論の魅力は知的な青年たちをとりこにしたが、やがて保守的市民から過激な危険思想家と目されるようになる。ソクラテスの受難も、ソフィストと混同されて市民の反感を買ったことが一因であった。

ソフィストの思想のうち、(a)プロタゴラスの「人間尺度命題」は人間中心主義、主観主義、［　31　］主義の表明とみられ、(b)ゴルギアスの「非存在の論」は知識否定論として、またトラシュマコスの「正義とは強者の利益なり」という説や、アンティフォン、ヒッピアスらの法（［　32　］）とピュシスの分離論は法や道徳に対する挑戦とみなすことができる。しかし他面では、それ自体としては単に言論の手段を提供するにすぎなかったものが、アテネ市民の野心や欲望と結び付いて、このような思想になったともいえよう。

哲学者［　33　］はソフィストたちの名を冠した一連の作品を著し、ソクラテスと真理のために、これらの思想と対決しその虚偽を暴いた。個人と国家のために善を図り言論と行為とにもっとも有能有力な者となる道を教授するというのがソフィストたちの自称であったが、彼らが実際に教えたものは、善について無知でありながら優れた人間であると思わせる方法であり、事の真偽や正邪を問わず、ただ大衆を扇動して論敵に勝つための技術であった。

ソフィストの語はこうして、［　34　］の徒を意味することとなり［　34　］学派ともいわれた。ただし、事態の裏面をみるならば、ソクラテスと［　33　］の哲学はソフィストたちの恐るべき論理から生まれたとも考えられ、その意味で彼らの哲学史上の意義がしばしば再評価される。

問１　文章中の空欄［　31　］～［　34　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［31］
① 弁論　② 相対
③ 懐疑　④ 絶対

［32］
① ノモス　② オイコス
③ エスノス　④ ロゴス

［33］
① ゴルギアス　② アリストテレス
③ プロタゴラス　④ プラトン

［34］
① 貪欲　② 欺瞞
③ 逆説　④ 詭弁

問２　文中の空欄［　A　］に入るギリシア語として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［35］

①　ΡΗΤΟΡΙΚΗ　　②　ΠΟΛΙΤΙΚΑ　　③　ΨΥΧΗ　　④　ΤΟΠΙΚΑ

問３　下線部(a) に関して，次のプロタゴラスについて述べられた文中の空欄［36］に入る語として最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。

プロタゴラスの思想を端的に表すのは，私たちにもすでに広く知られている，「人間尺度節（ホモ・メンスラ)」の説であろう。

人間が万物の尺度である。すなわち，そうあるものどもについては，そうあるということの，そうあらぬものどもについては，そうあらぬということの（尺度である）（断片１）

この章句が，感覚されるものと［　36　］とを厳格に区別し，ただ思惟によってのみ把握しうる，絶対的な，不変の実在を措定するエレア派とそれに追従する哲学者たちに向けられた批判と解するのは，すでに古代人の間でも定説であったようである。

（廣川洋一『ソクラテス以前の哲学者』）

①　目に見えるもの　　②　現象　　③　記号　　④　真実在

問４　ソフィストについて述べられた，次の文中の空欄［37］［38］に入る語として最も適当なものを下の①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。

ゴルギアスらソフィストは，そもそも「真理」を無視したり，隠蔽したわけではない。彼らは堂々と「真理」を論じると宣言し，実際，言論の力を有効に働かせている。それが弁論術が用いる「真理」であった。しかし，まさにこの点こそ，哲学が反発し批判する焦点となる。この意味で，ソフィストが「懐疑主義，不可知論，相対主義，虚無主義」といった哲学的立場をとるかのように語られることは不正確である。彼らは「哲学」という立場そのものを覆そうとしているのであり，哲学の内部に身を置いて，より正統な他の哲学説に挑んでいるわけではない。哲学の言説を飲み込み，それを相対化する力がソフィストの魅力だった。哲学によって「［　37　］」と批判されたソフィストの立場は，ある意味では，彼らから哲学に向けられた挑戦，「［　38　］」であった。

納富信留『ソフィストとは誰か？』より

［37］　①　親哲学　　②　超哲学　　③　反哲学　　④　非哲学

［38］　①　親哲学　　②　超哲学　　③　反哲学　　④　非哲学

第４問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問７**）に答えよ。（配点　24）

ソクラテスが生涯アテネの人々に向かって説いたことは「ただ生きるのではなく［　39　］生きよ」ということ，また，そのために「［　40　］への配慮」をおこたるなということであった。彼によれば，富，健康，名誉といった一般的によいといわれているものも，それ自体で幸福を生み出すのではなく，それらがすぐれたよい［　40　］によって生かされることによってはじめて幸福を生み出すのである。だから，自分の［　40　］のことは考えず，それ以外の富，健康，名誉などにのみ気を配ることは，「いちばん大切なことをいちばんそまつにし，つまらないことを不相応に大切にする」ことにほかならなかった。

そのためには，何が善であり何が悪であるか，［　41　］のことがらについての正しい知を必要とする。したがってソクラテスは，この知をほかのいかなる知にもまして重視した。真の知者とよべる者は，この知をもっている者でなければならなかった。

ところが，ソクラテスがアテネで知者といわれている政治家，詩人，技術者たちと問答をして気づいたことは，彼らのだれ一人として［　41　］のことがらについては何も知っていないということ，しかも，知っていないにもかかわらず，あたかも知っているかのように思いこんでいるということであった。

ソクラテスにとってデルフォイの神殿に掲げられた「［　42　］」ということこそ，すべての人々がとりくむべき第一の課題であった。ソクラテスが相手に無知を自覚させるためにとった方法が［　43　］である。［　43　］とは，まず相手に正しいと思うことをのべさせ，対話を通じてそれを吟味していく中で，相手にその考えの不十分さや誤りに気づかせ，より根本的な知に到達させる方法のことである。この方法は，知恵を外から教えこむのではなく，相手の魂の中に眠っている真理をよびさまし，相手みずからが知恵を生み出すのを助けることであるので，ソクラテス自身によって，［　44　］術ともよばれた。このよび名は，彼の母の仕事にちなんでつけられたといわれている。

問１　文章中の空欄［　39　］～［　44　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［39］
① ただしく　② よく
③ つよく　④ うつくしく

［40］
① 霊　② 身体
③ 魂　④ 理性

［41］
① 卓越　② 善美
③ 弁論　④ 無知

［42］
① 万物は流転する　② 自然に生きよ
③ 汝自身を知れ　④ 隠れて生きよ

［43］
① 逆説法　② 修辞法
③ 批判法　④ 問答法

［44］ ① 石工　② 看護
③ 弁論　④ 産婆

問２　対話相手に自らの無知を自覚させるためにソクラテスが用いた方法の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［45］（2012 年センター本試）

① 相手との問答を通して，相手の考えの矛盾を明らかにするという方法
② 神託に謙虚に従い，魂がそなえるべき徳に関する知へ誘うという方法
③ 善に関する真理を教授し，知を愛することを手助けするという方法
④ 魂を主題とする問答を通して，互いの優れた考えを学び合うという方法

問３　ソクラテスの考えた「真の知」についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［46］

① 知とは本来けっして誤ることのない絶対確実なものであるとすれば，真の知者は神のみであり，われわれ人間は何一つ確実には知らない存在であると考えた。
② 生涯をかけて魂の世話を続けることによって，人間は死後の世界で真の知に到達できると考えた。
③ 人間の魂は真の知についての記憶を持っているため，それを想起することによって真の知に到達することが出来ると考えた。
④ すべての知は相対的なものであるため，絶対的な知は存在せず，弁論によって真偽をあきらかにする以外に方法はないと考えた。

問４　ソクラテスはロゴスの働きを重視した。ソクラテスのロゴスについての言及として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［47］（2004 年センター追再試）

① 万物はロゴスに従って生じているのに，人々はそれに出会ったことがないかのようである。私が各事物を自然本性に従って分析し，その真の在り方を説明しているというのに。
② 私という人間は，自分で考慮してみて最善と思われるロゴス以外の他の何ものにも従わない。だから，今この場でもっとよいロゴスが提出されないかぎり決して譲歩しないだろう。
③ はじめにロゴスがあった。ロゴスは神であった。万物はロゴスによって成った。ロゴスによらずに成ったものは何一つなかった。ロゴスのうちに命があった。命は人間を照らす光であった。
④ 動物の中で人間だけがロゴスをもつ。ロゴスは人間に利と不利を，したがってまた正と不正を表示する。なぜなら，人間だけが善悪，正と不正などを知覚できるからである。

問５　人のすぐれたあり方(徳)を意味する語として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［48］

① アレテー　② アガトン　③ アルケー　④ アパテイア

問題は次のページに続きます。

問６　プラトンの対話篇に登場する人物が「無知の自覚」を表明したものとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［49］（2003 年センター追再試）

① ソクラテスは相手に対して質問するばかりで，自分の方からは何一つ答えようとしない。答えるよりも問うことの方が簡単だということをよく知っているものだから，誰かに質問されると空とぼけて，あれこれ言いつくろっては答えるのを避けるのだ。
② ソクラテスは自ら困難に行き詰まっては，他人も行き詰まらせてしまう。これまで大勢の人々に向かって徳について私が語ってきた話は，自分では立派な内容だと思っていた。ところが，今では徳とは何かということさえ語ることができなくなった。
③ 対話問答を通して議論を進めていくソクラテスの熱意は，称賛に値する。私は悪い人間ではないし，また私ほど嫉妬(しっと)心から縁遠い人間はいないので，ソクラテスが知恵にかけて有数の人物の一人になったとしても，決して驚かないだろう。
④ ソクラテスという人は，いつもこうなのだ。ほとんど取るに足らないような事柄を問い返しては，相手を反駁(はんばく)しようとする。もし誰かが何事につけてもこの人の言うことに同意してやったなら，この人ときたら，まるで若者のように大喜びするに違いない。

問７　ソクラテスの死に関する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［50］

① ソクラテスは，自分が死刑判決を受けることが，宇宙の理法としての運命に従うことであると考えて，死刑判決を受け入れることを選んだ。
② ソクラテスは，自分の哲学が否定されたことを不満に思い，アテネの民主主義を批判する意味で，死刑判決を受け入れることを選んだ。
③ ソクラテスは，不正を行うことによって永遠の魂を汚さないために，脱獄ではなく間違った死刑判決を受け入れることを選んだ。
④ ソクラテスは，いかに間違った法律であっても法律には従うということが，神のお告げであるから，死刑判決を受け入れることを選んだ。

これで問題は終わりです。